

十年後の三十年後の宝塚

阪神大震災から二年という時がたち、風景もずいぶん変わり、新しい建物ができ、二年前にくらべると、すぐきれいになりました。いまも、けれどもまだいろいろな所に二年前の大地震がおきた後の風景と、ま、たく変わってはいない家やかべなどがあります。けれども、十年後には、まだ直ってはいない建物や家やかべなども完全に直って、そのころには、昔の風景よりも、とま、と美しくなりました。町になっていいると思ひます。最近では、高速度道路や大きな建物やマンション、スーパーやデパートなどのものがあちらこちらにできてきています。けれども、そのような建物ができ、市民の人々が便利な生活ができるというところになると、逆に、こんどは、自然が破壊され、生き物たちが死に、また子供たちの遊んだりする所が失なわれてしまひます。また最近では、大きな建物の増加とともに、排気

か入を大量に発生し、よく病気になる人がいます。そして、その車から発生する排気ガスは、人間を病気にしてしまふだけでは、なく森林などの人間にとつて大切な生き物を枯らし、してしまひます。また、人間だけがなく、いろいろな動物たちも人間と同じ原因の病気になつてしまひます。このように、排気ガスは人間を絶えつさせてしまふ力を持っています。このです。このような病気を防ぐためには、まず車の生産をストップして、このわけにはいかないけれど、なるべく車の生産を少なくすると、この方法と、太陽電氣を利用する車のソーラーカーを大量に生産するといふこの二つの方法を実行するといふことしか排気ガスを減らす方法にはならないと思ひました。十年後が三十年後には、自然もあるし、デパートなどのとても便利な建物もでき、みんながこんな時でも楽しく遊んだりできる公園があり、みんなが楽しく生活できる町になり、この町からは、絶対に出たかないとみんな

伝えることの義務

ます。私が10年後、20年後に忘れないうでほし
いのは、震災に対するみんなの気持ちです。

私の学校は校舎の一つがこわれてしまいました。
今は新しい校舎がたっています。もう、震災
のおもかげはなくなっています。

でも、全く震災のことを忘れてしまっ
てはいけません。いけません。

私ほど、大阪の震災に、震災にとても世話
なりました。また、近所の人達を協力して、

乗りこえてきました。そして、私の中につみ
んなは一人のために、一人はみんなのために
と言う言葉がうかんできました。

震災で協力するということが、いかに大切
なものであるか、ものだと、ものだと、ものだと、
ものだと思えます。

しかし、震災のこわい思い、出ばかり考えてい
ると、本当に、大事なことが分からなくな
てしまうと思えます。

私達にとつて、震災で得たことを未来に伝

えるのは、義務だと思えます。また、10年後
や30年後の人たちに、「協力」というものを
本当に分かっている、何事もプラスに考え
てほしいと思えます。

き、10年後、30年後は、とてもきれいな宝
塚になっていると思います。そしてまた、み
んなが協力できる宝塚になつていると思いま
す。

もちろん、10年後、30年後の人たちは、震災
を経験していません。だから、私は、

震災時の写真をいりました。そして、その中
に、人々や物の心を、

本当の心で感じて、みんながプラスにして、自
分も、みんなが、みんなが、みんなが、

いでも、地震がおきないでほしいという願いは
みんな同じだけ、もし地震がおき長時に、

それに勝てる心を持って、いらないといけな
いと思えます。そして、それを伝える努力を私達
は、しなければならぬし、10年後、30年後の人

